

淀川河川公園 烏飼下地区 公園整備計画（修正案）

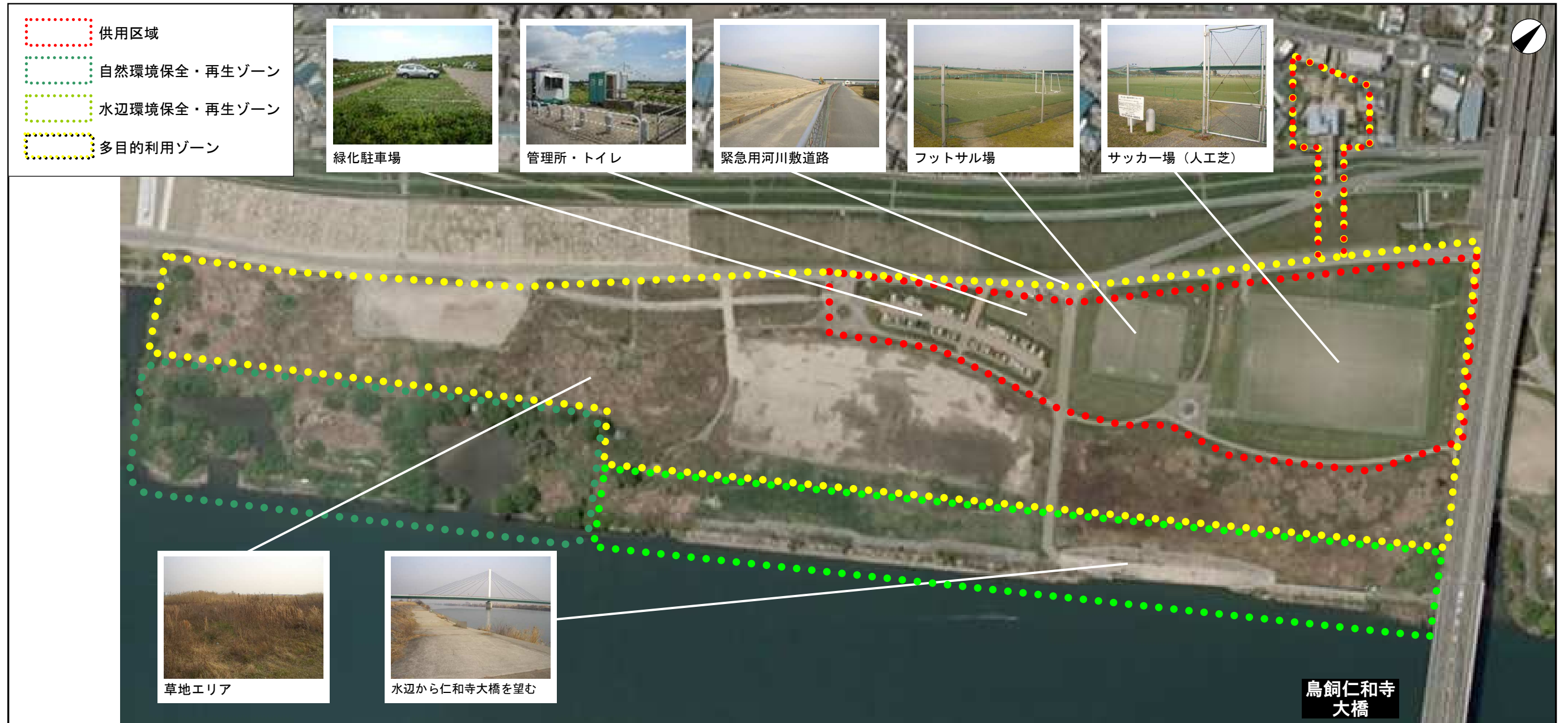
■ 1. 鳥飼下地区の現況

年間利用者数と主な公園施設

年間利用者	年間利用者数 132,395人 サッカー場 25,950人 フットサル場 15,375人 ※運動施設は内数（平成22年度）
主な公園施設	サッカー場（人工芝） 1面 フットサル場（人工芝） 1面 駐車場 66台 管理所 1ヶ所

各視点からの現況

	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、全て「多目的利用ゾーン」に含まれている。 「水辺環境保全・再生ゾーン」は、手つかずの状態となっているが、高木が生い茂るなど、近寄りたがたい雰囲気となっている。 わんどが数カ所残っており、「自然環境保全・再生ゾーン」として設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上流の地区（鳥飼上地区）と併せて広大な敷地に多数の運動施設があり、活発に利用されている。 鳥飼仁和寺大橋が風景のアクセントとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防外に鳥飼サービスセンターがあり、堤防上と橋で平坦につながっており、利用者の利便性は高い。 全体的に日陰が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急用河川敷道路および園路により上下流方向への移動は容易。 堤防部は、基本的に車両は通行しないため歩きやすい。 近傍に鉄道駅は無く、公共交通はJR千里丘駅からのバスが近くを通っている。 駐車場が1箇所整備されている。



■ 2. 鳥飼下地区の整備方針

淀川河川公園基本計画に基づき、地区特性を踏まえ、鳥飼下地区の整備方針を以下のように設定します。

淀川河川公園の整備方針（基本計画）

（1）ゾーニング計画を新たに定める

- 基本計画における地区区分計画を改め、淀川の自然環境が縦断及び横断方向に連続するようなゾーニング計画を新たに定める

（2）淀川の自然環境の保全・再生を図る

- 自然環境の連続性に留意しながら、自然環境のネットワーク及び淀川の特徴ある水辺の景観を保全・再生する
- 干潟や砂州、ヨシ原、ワンド、たまり等の水陸移行帯や淀川固有の生物が生息・生育できる場を保全・再生する

（3）淀川らしい利用ができるようにする

①淀川の自然環境と利用との調和を図る

社会動向の変化、周辺の都市の状況、地域住民・利用者のニーズや意見を踏まえ、地区ごとの特性を考慮しながら淀川の自然環境と利用との調和を図る

②淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

地区ごとの特性を活かし、水辺での水遊びや自然観察、原っぱでの遊びや運動、休憩、散歩など様々な形で淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

③淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ

散策やジョギング、サイクリングなどが行えるよう、淀川全体をつなぐとともに、周辺地域と淀川にまつわる歴史・文化資源の散策・周遊等のルート設定や、広域避難地としての役割など、まちと淀川をつなぐ取り組みを行う

④淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる

水辺越しに見える都心部の眺望景観、北摂連山や天王山、男山、生駒山地などの山なみと一体的な景観との調和を図り、水辺の景観を楽しめる場をつくる

（4）淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす

- 渡しや舟運、旧毛馬閘門・洗堰や川港跡、樋跡、三川合流部などの保存や展示、言い伝えを後世に伝えるなど、淀川にまつわる歴史・文化の資源を活かす

鳥飼下地区の特性

- 下流側に周囲を雑木に囲われたワンド群が存在する
- 現況は、ヨシ原が広がり、淀川中流域の独特な景観を有している
- 鳥飼サービスセンターに隣接している
- 地域住民から、グランドゴルフコースが設定できる広場の整備の要望が高い

鳥飼下地区の整備方針

◇水辺の自然環境を活かし、水に親しみ、ふれあう場づくりをめざします

- 鳥飼下地区の下流側のワンド群やヨシ原など、淀川特有の自然環境を保全しつつ、自然とふれあい学べる場や、水辺の景観を楽しめる場づくりを図ります
- 人々の利用エリアと水辺との間に緩衝緑地を設け、自然環境の連続性を確保します

◇人々が気軽に多目的なレクリエーションを楽しめる場を提供します

- 地域や周辺の人々が集まり、気軽に運動やピクニック、バーベキューなどを楽しめるレクリエーションの場を提供します
- 野球やサッカーなど単一目的の運動施設から、運動、遊び、イベント、散策など利用者の創意工夫で多目的に利用できる広場づくりを進めます
- 多目的に利用できる広場は、地域の要望が多いグランドゴルフなどの運動にも利用しやすいように配慮します

◇淀川全体をつなぎ、川とともにあった暮らしが感じられる環境づくりをめざします

- 船着き場を活用しやすくすることにより、水面利用の促進を図ります
- 鳥飼サービスセンターの多様な機能を活かし、河川公園と一体的な活用を行うことで、まちと川のつながりを高めます

■ 3. 鳥飼下地区公園整備計画（修正案）

■ 淀川河川公園基本計画におけるゾーニング



- 凡 例
- 供用区域
 - 自然環境保全・再生ゾーン
 - 水辺環境保全・再生ゾーン
 - 多目的利用ゾーン



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

整備項目（黒）：原案の項目、 整備項目（赤）：地域協議会、地区会議の意見に基づく項目

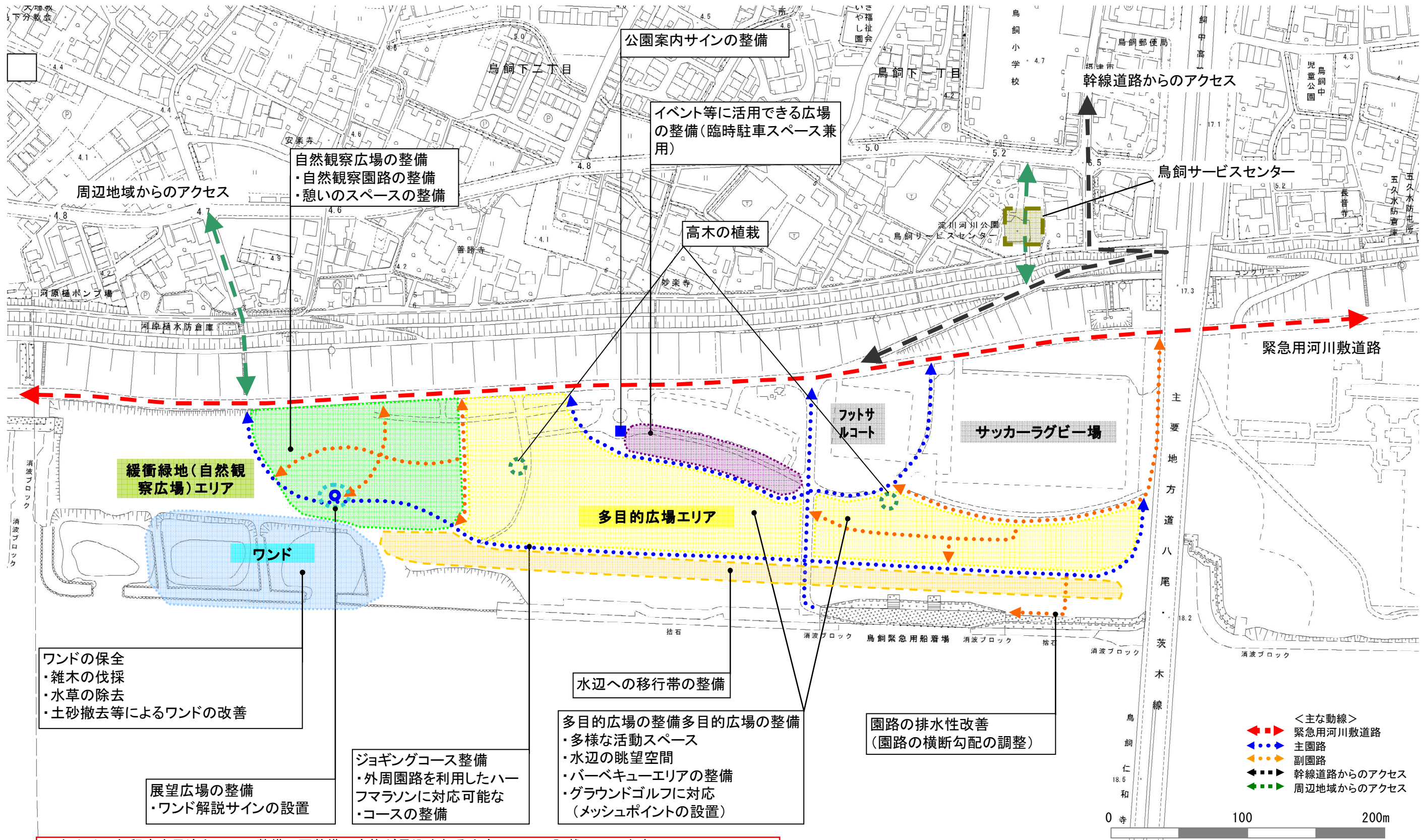
■ 4. 鳥飼下地区の整備提案項目（案）

	整備項目	該当項目	整備内容
1	ワンドの保全	【ゾーニング計画の実現】	・鳥飼下地区下流のワンド群について、良好な環境を保全するため、周辺の雑木を伐採するとともに、水草の除去、 土砂撤去等によるワンドの改善 を行う。
2	多目的広場の整備	【魅力の向上】	・多目的利用ゾーンにおける広場整備及び維持管理のモデル地区として、様々な遊びやイベント、バーベキュー、橋や水辺の景観を楽しんだり、グラウンドゴルフ等の運動など、多目的な利用ができる広場を整備する。
3	イベント等に活用できる広場の整備（臨時駐車スペース兼用）	【魅力の向上】	・イベントの開催等に活用できる広場を、既存の駐車場に隣接したところに整備するとともに、ゴールデンウィークなどピーク時には臨時駐車場として利用できるようにする。
4	自然観察広場の整備 展望広場の整備	【ゾーニング計画の実現】 ・【魅力の向上】	・ワンドと多目的広場の間は緩衝緑地とし、淀川らしい野草やいきものに触れることが出来る自然観察広場とする。 ・ワンドを展望する位置に、自然観察のオリエンテーションなど行う広場を用意し、ワンドの解説サインの設置を行い、環境学習の場を整備する。 ・市民参加による環境学習や植生管理の場としての利用を図る。
5	水辺への移行帯の整備	【ゾーニング計画の実現】	・多目的利用ゾーンと水辺環境保全・再生ゾーンとの境界にあたる広場周辺の園路沿いに河原らしい景観を形成する。
6	ジョギングコースの整備	【魅力の向上】	・外周の幹線園路を延長1500mにセットし、外周園路を利用したハーフマラソンに対応可能なコースを整備する。
7	高木の植栽	【快適性の向上】	・多目的広場の適切な箇所に高木を植栽し、木陰を創出する。
8	サインの設置	【快適性の向上】	・総合案内マップや多目的広場の利用案内、環境啓発用の解説等のサインを配置する。
9	園路の排水性改善	【快適性の向上】	・雨天時に水溜りが生じる河川沿いの園路の排水性を改善する。

整備項目（黒）：原案の項目、 整備項目（赤）：地域協議会、地区会議の意見に基づく項目

※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となる場合があります。

■ 5. 鳥飼下地区整備計画図（案）



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
 ※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

■ 6. 鳥飼下地区公園整備イメージ

